

ポーラ・オルビスグループ横断プログラム「美を紡ぐ」をスタート “伝統工芸”や“食”などをテーマとし、文化と人を通じて「美」を考える

株式会社ポーラ・オルビスホールディングスで化粧品の枠を超えた新価値創出を狙うマルチプルインテリジェンスリサーチセンター（所在地：東京都中央区）は、社員が新しい価値を生み出すために「これからの美とは？」をテーマに、グループ横断プログラム「美を紡ぐ」を2018年3月よりスタートしました。

京都を舞台に、日本人がこれまでの歴史の中で培ってきた「美」を改めて見直し、未来に向けて創出すべき「美」について考えることを目的としています。



プログラムについて

ポーラ・オルビスグループは「感受性のスイッチを全開にする」をグループ理念に掲げています。この度、元禄元年の創業以来、織物を通して美を追求してきた京都西陣織の老舗である株式会社細尾 常務取締役である細尾真孝氏をポーラ・オルビスホールディングスの外部技術顧問に迎え、一人ひとりの美意識や感受性を磨く活動の一環としてプログラムを実施します。

グループ各社から応募制にて、さまざまな視点を持ったメンバーが参加。テーマに応じて伝統工芸や日本食などが持つ「美」を感じると共に、それらの担い手との対話を通じて「美」に関する思想を「蒐集^{しゅうしゅう}※1」します。また、参加者一人ひとりの感じ方を互いに共有し、ディスカッションすることで、お互いの感受性を高め、より気づきの質を高めます。

今後は「テクスチャー」「空気感」「心」などをテーマに、2～3ヶ月に一度のペースで継続する予定です。

※1 寄せ集めること。コレクションすること。

第1回「経年(エイジング)美化」に関する研修内容

開催日：3月6日（水）実施済み ※定員 20名

内容：西陣織の「細尾」および茶筒の「開化堂」を見学。老舗でありながら革新的な試みを行い、新たな「美」を生み出している伝統工芸の担い手から直接話を聞くことにより、作り手の意識や感性、文化を再認識し、そこから生まれる様々な形の「美」を実際に体感。

【参考資料】

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

マルチプル インテリジェンス リサーチセンター

http://file.swcms.net/file/po-holdings/news/news/auto_20171129427018/pdfFile.pdf

化粧品の既存の枠を超えた新価値創出を狙い、グループ視点での研究戦略および知財戦略を策定し、研究成果のグループ最適配分の役割を担います。また、マーケットリサーチとイノベーション案件の探索に特化した専任スタッフ（通称 ぶらぶら研究員）を配置し、全世界から次世代のニーズを収集、最先端技術との連携や投資案件の探索を行ないます。さらに、グループ横断で「美を考える」取り組みの企画・実施を行います。

細尾真孝氏

京都西陣織の老舗 株式会社「細尾」12代目、常務取締役。

織物だけでなく美、文化、技術にも造詣が深く、現代美術やラグジュアリーブランド、サイエンスとのコラボレーションで織物の可能性を広げる活動を行っています。

2018年より(株)ポーラ・オルビスホールディングスの外部技術顧問に就任。



株式会社 細尾 <http://www.hosoo.co.jp/>

元禄元年の創業以来、織物を通して美を追求してきた京都西陣織の老舗。革新的なテキスタイルの開発にも積極的に取り組み、新たな伝統を生み出しています。



株式会社 開化堂 <http://www.kaikado.jp/>

明治8年創業の日本で一番古い歴史を持つ手作り茶筒の老舗。昔ながらの製法を守りつつも、新しいことにも挑戦し続けています。密閉性や開ける瞬間の心地よさにこだわり、しかも使い込むほどに味わいが深まる茶筒は国内外で長く愛用されています。

